

校長室だより

第8号

平成30年6月19日

MOTTAINAI (もったいない)



## 災害について 普段何を大切に生きているか

昨日の地震で、お亡くなりになられた方々のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。また、大阪北部ということもあり、保護者のご親戚お知り合いの方で、被災し被害に遭われた方もおありかと思えます。お見舞い申し上げます。

昨日の地震は、ちょうど児童の登校の時間帯と重なりました。学校では、すぐに校内放送で「机の下に避難しなさい！」と指示しました。各教室では、多くの児童が、放送が入る前に自主的に机の下に避難したようです。また、登校中の児童の中には、ランドセルを頭の上にかぶり、安全確保した児童もいたようです。

先週、毎月送られてくる教育雑誌の巻頭言が、東日本大震災当時、大きな被害に遭った宮城県東松島市の当時の教育長の言葉でした。標題は「全人格をかけての判断」。内容は、震災後の校長会での講話。「…マニュアルも避難訓練も大事である。しかし、想定を遙かに超えた災害もある。その時には校長として、全人格をかけて判断するしかない。全人格は、普段何を大切に生きているかでつくられるのだと思う。」と。心に染み入る言葉でした。



ワールドカップ・ロシア大会に向けて、様々な特集番組が組まれている。ある特集番組で、鬨莉王選手・大久保選手・本田選手といった、なかなかの強者（つわもの）が揃った南アフリカ大会で、岡田監督が鬨莉王選手に語った逸話が紹介された。岡田監督は、「好きにならなくてもいいけど、互いにリスペクトしなさい！」と、鬨莉王選手に指導したそうだ。

「互いにリスペクトする！」チームと個人、サッカーだけでなく、協力して生きていく、我々全ての集団と個人のありように通じるなと思った。

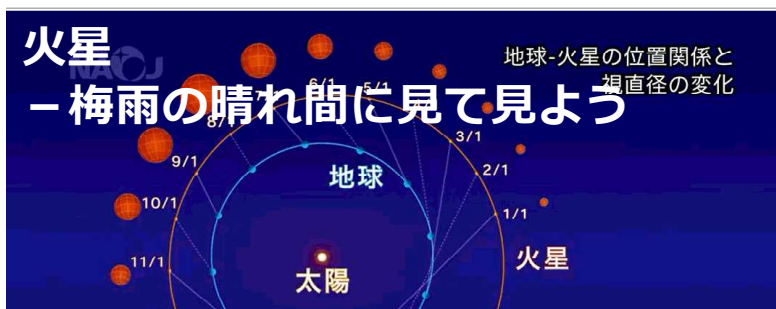
今大会でも、互いにリスペクトし、チームと個人が生きる姿を期待したい！



これも、ワールドカップ・ロシア大会ネタですが…。

ある特集番組で、NKB48の磯佳奈江さんが出演していた。磯さんは元サッカー少女だったそうだ。その磯さんが、日本代表の次に注目しているのがワールドカップ初出場のアイスランド。アイスランドは、氷河と火山で有名。国土の多くが、北緯60度以北の北極圏にあり、メキシコ湾流という暖流が流れているものの、夏でも20度に届かない自然の厳しいところ。しかも、人口が34万人ほどの小国。その国が、もっとも出場の厳しいヨーロッパ予選をグループ首位で通過し、先日はメッシのいるアルゼンチンと引き分けた。

今回の躍進は、偶然ではなく、育成段階からの素晴らしい哲学と実践にあるようだ。アイスランドは、国民が少ないことを「資源が足りない」とは考えず、「全ての子どもに、トップクラスの育成環境を用意することができる」と考え、育成環境の充実に努めてきた。スポーツ科学、心理学なども積極的に取り入れた。「勝つため」にプレーするのではなく、「すぐれた選手になる」ように育てられる。その一つが、「才能や能力を評価する」ことより、「過程を評価すること」で、選手の成長を止めない方法を確立したそうだ。アイスランドが示した道は、一人の選手も無駄にせず、隠れた才能を見つけ出す努力の重要性だ。



7月31日、約2年2か月ぶりに火星と地球が最接近します。地球最接近の頃には、火星の明るさはマイナス2.8等級となります。今もマイナス等級で、秋頃まで肉眼で見ることができます。

今は、深夜から明け方にしか見えませんが、7月に入ると、早い時間に見えるようになります。

梅雨の晴れ間の楽しみに、夜空なども観て、七夕の頃には、「あの赤い星が火星だ！」などと話するのも素敵ですね。



写真は、17日(日)の朝の大泉緑地。ワンコの散歩の折に撮りました。

左奥、遠くに見えるのは、金剛山。梅雨の雨でちりやほこりが流されているので、はっきりとその美しい山容を見ることができました。緑もとてもきれいです。天美からも近くて、しかも無料。時間がある時にお出かけ下さい。